

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成28年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されています。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成28年11月25日（金）14時00分～15時40分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

石川信委員，臼井多賀子委員，関実枝子委員，染川香澄委員，田切美智雄副委員長，田上公恵委員，中川輝夫委員，松下博充委員，水嶋英治委員長

※事務局出席者

横山一己館長，小川均副館長，田崎俊一副参事兼管理課長，小幡和男副参事兼企画課長，青木賢一教育課長，久松正樹資料課長，齋木均志係長，小池涉首席学芸員，池澤広美首席学芸員，國府田良樹首席学芸員，中里賢係長，沼尻耕一郎係長，松浦卓也主事，真中幸子主事

5 議事概要

(1) 議案説明 (事務局)

議題

- (1) 平成28年度前期事業の報告について
- (2) 平成28年度後期事業計画について
- (3) 予算・決算などについて
- (4) その他

(2) 質疑・意見交換

○議題(1)～(4)について

A委員：

全体としていい状態でまわっているとは各種の結果で見えるが、木道などはサイクルもあるのですが、今度は直せるが、今後どうなるかも含めて検討してほしい。筑波山地域ジオパークが発足しまして、今年から活動を始めることになる。今回の28年度の中には何もあらわれてこないというのは、ある程度やむを得ないところであると思うが、いずれ自然博物館が筑波山地域ジオパークとどういう関係でどういう活動、協働というかたちで活動していくのか。後期以降の話としてぜひご考慮をお願いしたいと思っています。これは自然系のもではありませんが、動植物地学も含めていろいろありますけど、それ以外も歴史的なもの、文化的なものもやっている活動のようでございます。自然博物館としてもこれまでも企画展でいろいろなことをやってきましたが、筑波山地域ジオパークとしての活動の中にどんどん入り込んでいっていいのではないかと感じがしております。ぜひご考慮いただきたい。当館はボランティアさんがたくさんおられるわけなので、このボランティアさんに対して、筑波山地域ジオパークのことを知っていただく作業はどうされているかについて質問しておきます。

事務局：

木道に関しては新しいものは耐用年数を20年と考えている。筑波山地域ジオパークについては機会をとらえてお知らせしていきたい。

事務局：

ボランティアについては特に予定はありません。現在、筑波山地域ジオパークの特別展示をしているが、県北ジオパークについても、常設の中に入れて行こうということで考え

ています。ボランティアについても機会をとらえて、研修会など筑波山地域ジオパークにかかわっている方もボランティアの中にもいるということもありまして、今後企画していきたいと考えております。

B委員：

この協議会は、皆さん目的意識がはっきりしていて、そして実践して、どこかで利用者がそれ感じていて、来館者数も増えていてとてもいいサイクルを感じられ、いつも楽しみに参加しています。学芸員さんの展示が大好きです。私たちは年に2回会議に来ますが、お一人お一人どのような活動や生活から研究活動をしてというのはなかなか聞けない。バックヤードというか隠されたあゆみというのを知れるのは、とても楽しいです。ご計画もされていると思いますが、例えばプロセスという意味では、パンダのはく製など8体をご寄贈いただいているようで、難しすぎて触れられない部分もあるし、難しすぎて一般の人に紹介しても分からない部分もあると思いますが、博物館が資料を収集するということがどういう意味があるのかとか、こんな苦労話があった、こんな人とのつながりから資料に加わって県民の宝となるということ、私自身も聞きたいと思いました。それと同じで恐竜の動刻が入るようで、よかったですと思います。研究の中で分かってきて、博物館の展示が変わるということ、研究とか学びの流れを、子供たちだけでなくシルバーの人も、そういうことが表現されたらどうかと思います。木道もよかったですと思います。とんぼの池干しも、井の頭公園でもやっておられてかなりアピールしている。もちろんニュースソースにもなるし、みんなで何がいいのか予想しながらできて楽しいかなと思いました。

議長：

資料収集の意義、社会的意義もあるでしょうし、学術的な意義もあるでしょうし、そういうのを館から積極的に情報発信していくというのは大事だという、私も全く同感です。

C委員：

この会議は初めて参加させていただいたので、あまり参考となる意見が言えないかもしれませんが、今回で感じたことなのですが、入館者も非常に多くなっているということなので、博物館の職員の皆様の努力が非常に分かりました。学校教育の中で、企画展の開催から終えるまでの苦労話などを学校に行ってお話されると非常に博物館の教育に関心が出てくのではないかと思います。「環境かるた」というのをつくば市の方で作ったのですが、それぞれ完成するまでの苦労話をいろいろな学校に行ってお話をしているのですが、生徒たちは感動して聞いてくれます。そういう努力もされた方が入館者の増につながっていくのではないかと思います。それからジオパークに関しては、関連した市民クラブがありまして、専門的な方、教育に関心のある若い方もいるのですぐ活動できるのではないかと思います。

議長：

筑波ジオパーク市民クラブの情報はもう入手されていますか。もしされていなかったらご指導いただいて連携を強めていただきたいと思います。

事務局：

筑波山地域ジオパークについては、いろいろな団体さんと活動することが多くて、筑波山地域ジオパーク推進協議会の教育学術部会に参加しております。さらに市民クラブとかいろいろな団体があり、その一部には当館のボランティアとして活動している方もおり、そういったところでやりとりしながら進めていきたいと思っています。いろいろ情報を教えていただければ今後参考にさせていただきます。

事務局：

教育課として講師派遣というかたちで様々な学校さんに年間100回以上講師派遣をさせていただいております。ご意見を伺っていて例えば企画展ができるまでの話ありますとか、そういった部分も参考にさせていただきながら、範囲の広い、意味のある、講師派遣を考えていければなと思っております。

D委員：

いつも申し上げておるのですが、この博物館の皆様がたゆまぬ努力を続けていらっしゃることに敬意を表しておりますが、入館者が他の博物館が苦戦をする中で非常な増加をとげていることを嬉しく、また、日頃のご努力に敬意を表します。昔、私の意見として、学芸員の先生方のお顔を企画展の時にご紹介したらより見に来る方が親しみをもってご覧になるのではないかとのご意見を申し上げたことがあるのですが、それを取り上げていただいたのか、皆様のご発想なのか分かりませんが、その形式が今実践されているようで、うれしく思いました。私はモンゴル展を大変楽しみにして、拝見しましたけど。本当にモンゴルの要人方たちもいらして、とてもたのしい講演会で、たのしく拝聴したり、質問させていただいたりして、とても面白い企画でした。ただいま催されている外来の生き物たちという、人心を巧みにつかむようなキャッチフレーズとか、Youはどうして日本へとかこういう発想をする先生方がいてとても嬉しいと思っています。楽しいなと思って拝見いたしました。

あとは学校の児童生徒に来館をどの美術館も博物館も呼びかけますけど、なかなかカリキュラムとか先生なんかのご都合とかで思うようにいられない学校もあると思いますが、この博物館の恩恵を広く皆さんに伝えられるためにも、貸出資料を充実させていただけたらと思いました。

この前も申し上げようかどうか迷ったのですが、お手洗いの話が出たので申し上げさせ

ていただきます。私、県内の博物館とか美術館とか回しまして、こちらの博物館のお手洗いが一番汚いです。汚いというのは便器が汚れているとかではなくて、どうしても水回りのところ、どうしても来館者が多いから使用頻度も多いのも理解できるのですが、水回りとか洗面台とかそういうところの清掃をもう少しまめになさってはいかがかなということ常々こちらに伺うたびに感じておりましたので、今日は思い切って申し上げさせていただきました。以上でございます。

議長：

入館者増については、学芸員のアイデアというか発想というか当たり年だったかなと思っています。外から見ますとご苦労様でしたと高く評価したいなと思います。それからインターネットで増えたのもひとつの原因だと思います。リピーターが増えたのは常設展ではなくて企画展を見るためという説明がありましたけども、これからも企画展も増やしていく努力がこれからも必要ではないかと私も思いました。

E委員：

入館者が多いということは重要じゃないかと思う。それには皆さんからお話があったいろんな企画をなさっている企画展の内容が良いことが数字に出ているのかなと思っています。企画展が良ければ次に来るんですね。子供たちが面白いと次に何をやるのかなと思うのでしょう。グラフの4にあるように来館理由が企画展は38.1%と最も多くなっています。私も東京の美術館もよく見ますが意外に入っていないところがあります。企画展は子供も大人も楽しみにしているところがマッチングしているのかなと思いますので。これからはぜひ、ご苦労なさっているとは思いますが、企画展の成功が入館者につながるかなと感じております。それから県外の方がこんなに多いのかなと、28年度は県内より県外が多い。地理的な条件からすると千葉県、栃木県、そういうところに広報するともっと来るかも知れません。TXがつながったことで、東京から呼び込むように宣伝をするともっと良くなると思います。グラフ3の27年度の初めて来た方が49.7と約半分いる。これは何かあったのかな。これは次の年の28年度につながっていると思います。初めが良ければ次も来る。それが企画展とぶつかればもっと良いのかなという感じがします。この辺をうまくやれば入館者も増えるかなと感じています。企画展の計画は何年も前からしており、いろいろな企画展をやると子供も大人も楽しめるという感じもしますので、力を入れていただければと思います。グラフの5の数字からすると、チラシ、ポスターもそうだが、これからはインターネット、SNS、動画に入れると若い方の関心を引くと思う。

議長：

PRとかインターネットとか動画とか宣伝の方式とかいろいろご提案いただきましたので、ぜひご検討いただければと思います。

F委員：

私は県北に住んでいるものですから、なかなかこちらまで足を運ぶ機会が少なくて申し訳なく思っております。今度、委員ということで興味を持って参加させていただいてご意見を述べられればと思っております。本当に皆さんのご努力のおかげで、入館者が増えているというのは、素晴らしいことだなあと聞いておりました。私、ガールスカウトですけども、会員減でございます。子供が少ないと愚痴ばかり言っておりますけど、そうではないのですよね。実は。やはり会員を増やし、入館者を増やすというには、それなりの皆さんの努力が、あつてのことだと思っております。私も委員になるということで、はじめて企画展のチラシとか招待券をいただいて皆さんにお配りしたのですが、皆さん行ってみたいとおっしゃっていました。私も、このキャッチコピーですか、若者、子供向けするようなものだなということで、以前とは何か違うという認識を持ちました。

はやりのインターネット、若者だけでなく皆さん使っていると思いますね。今はそういうものを使わないという手はないと思いますね。そういうツールを使って情報発信していかれると思っております。ガールスカウトに興味を持たれる方もホームページへ問い合わせをして、資料を送ってくれとか、こういう所だがガールスカウトはあるかとの質問からつながっていきます。昔は、ロコミという感じで、人から人へお誘いをして入ってくるとかあったのですが、今の若い方はそんなものは使わないですね。直接自分でチャレンジするというか、つながっていくということがあるので、非常に効果的なツールではないかと思っております。今日は、初めてでいろんなことが、博物館がこんなこともやるのか、あんなこともやるのか、といことが分かりまして、非常にお勉強になりました。企画展も、学芸員の方が、研究・調査してきたものの発表会を兼ねるみたいなお話がありましたけども、やはりそれだけの年月を費やして企画される情熱が反映されているのかなという気もしました。企画展などに参加し、理系の子供たちが育つのではないかと思います。

議長：

どうもありがとうございました。ロコミよりインターネットが増えたというのは28年度からですが、まだ25%はロコミなので、それはそれで大事にしていきたいと思えます。

G委員：

資料1の10ページをご覧いただきたいのですが、先ほど入館者増のキーワードは企画展、インターネット、県外というキーワードだったですけれども、資料1のグラフ6は非常に面白いですね。キーワードである企画展を茨城県の方は70%知っていた。埼玉県とか県外の方、企画展を知らずにやってきた。インターネットで調べてみるとこんな展示があるということで来てみたら、もっと面白い企画展もありましたというストーリーなのか

もしもありません。逆に言うと県外のお客様で企画展を知らなかった方々に対して、PRすればひょっとすると入館者がもっと増えるかもしれない。ではどうしたらよいかということだと思います。以前も申し上げましたが、TXの秋葉原駅にいろいろなスペースの活用した広報で、更なる集客につながるのではないかとご提案させていただきます。

もう1点は、中期計画の中では地域に根ざしたという1つのキーワードがございました。地元の博物学の普及というのでしょうか、そういったことに対して、何かもっとやっただいていいのかな、例えば先ほどジオパークの話がございましたが、本県の地質学的もの、もっと壮大に地球誕生から人類の発生ままでですね、その中で茨城県がどういう立場にあったのかというもの、そういうダイナミックなものをジオパークなんかをひとつのキーワードとして、展開できたら面白いなと思っています。博物館らしさでありながら、絶景をつくれるようなものがあったらおもしろいなと思ひます。お客につながらなくても面白いなと思ひまして、地域に根ざしたというもう一つの部分もお願いを込めましてお願いいたします。

議長：

いろいろご指摘いただきましてありがとうございます。私にとって新しいキーワードは博物館らしさでありました。博物館らしさ、茨城県自然博らしさをもっと、TX秋葉原を活用していただきながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

H委員：

私も初めてですので、来るのも初めてですので。中身については入館者も増えておりますので、非常に充実されていると思ひておるのです。今日のお話の中でいくつか、いろいろところで補修の話が出てきましたが、中期計画というのを立てていろいろ事業をやっているとのことですが、補修については計画的にやっていただきたいというのがあります。資料を見て分からなかったのは、博物館全体の収入構造がどうなっているのか、そこにおける入館料収入はどのくらいの割合なのかわからなかったのです。特に県からの支出がこの年間で減っているのか、増えているのかが大きく影響してくると思ひるので、収入構造全体が分かる資料があると嬉しいなと思ひました。入館者が増えて単年度で予定よりたくさんお金が入ってきたときに、どうしても単年度主義だとそこでどこを直そうかという話になって、さきほど言った計画性からツギハギ的な対応となって、うちの会社もそうですが、なりがちなところがあるので、収入を、財政を安定化させる。もしくは予定より収入があった時に繰り越すというのは難しいと思ひますけど、ただそのような仕組みでもないと単年度でやりくりしていくと、どうしても補修は場当たりのようになってしまうので、良いことがないのかなと感じたところでもあります。

広報というかたちではうちの会社はなかなかできないのですが、いろいろ情報提供していただければ報道でお伝えして行こうと思ひています。やはり最近ネットということが

出ていますが、ネットで知ったというのが一番多いのですが、それ以上の詳しい分析をされていますか。つまり、フェイスブックなのかツイッターなのかホームページなのかということだと思います、いきなり自然博物館のホームページに飛んで来る人はいないと思います。その人たちがどういうことからここに行き着いたのかを詳しく調べたうえで、いろんなところと連携して、最終的にはホームページに行きつくというかたちで、全部一人でやろうとされず、うまい仕組みを考えると効果的かなと感じました。

事務局：

少し対応が遅れまして、情報をインターネットで見たというひと項目だったのですが、今年度から、うちのホームページかそれ以外かというアンケートは取り始めました。やはりうちのホームページを見たというお客さんが予想より多かったのですが、今ご指摘いただいたところでは、いつものアンケートとは別に期間を決めて、ネットの利用の仕方については詳しくお客様に聞いてみると何か出てくるかなと思いました。TXにつきましては、いつもTXプラザの活用については言っていたいておるのですが、恐竜のリニューアルに際しまして、TXプラザをぜひ利用させていただければと思います。

事務局：

人をたくさん入れる、PRするというのは非常に大事ですが、たくさん来られると対応が追い付かないことがあります。毎朝、野外の木のテーブルは職員が拭いている。芝刈りも職員がかなりやっております。野外施設メンテナンスの予算が昔と比べると少なく、我々がやらなければならないという状況があります。洗面器が汚いというのがありました。私は国立科学博物館にいましたが、そこは清掃員が常時10人でしたが、ここは昼間1人か2人です。それでは対処できないと思います。予算に関しては、そのシステムから非常に難しいところがあります。PRに関しては、3月から10月は、人が多くて昼食を食べる場所がなくなってしまいます。人が少ない冬の期間12月から2月をPRしたいというイメージはあります。

議長：

それも苦労話のひとつだと思います。始まる前に開催時期について館長と意見交換させていただいたのですが、年度末の前に来年度の事業計画を聞くとかですね、あるいは中間報告的に開くよう、2、3年かけ変えるようなことを思ったしだいです。今日の皆さんご意見をまとめていただいて、次のステップへつなげていただければと思います。